

<概要>

平成6年度に「[核原料物質](#)、核燃料物質及び[原子炉](#)の規制に関する法律」等の規定に基づき、報告された[原子力発電所](#)におけるトラブルの件数は14件であった。原子炉1基当たりの報告件数は0.3件であった。

<更新年月>

1996年03月（本データは原則として更新対象外とします。）

<本文>

この報告された14件の内訳は、運転中（試運転中及び調整運転中を含む）に自動停止したもの3件、手動停止したもの7件、原子炉停止中に発見されたもの3件、その他のもの1件となっている。なお、いずれの場合も、原子力発電所周辺環境への[放射性物質](#)による影響はなかった。平成6年度原子力発電所におけるトラブルの概要を [表 1-1](#) および [表 1-2](#) に示す。

<関連タイトル>

[日本の原子力発電所における事故・故障・トラブルの推移（2005年度まで）\(02-07-01-01\)](#)

[日本におけるBWR原子力発電所の主要な事故・故障・トラブル（2005年度まで）\(02-07-01-02\)](#)

[日本におけるPWR原子力発電所の主要な事故・故障・トラブル（2005年度まで）\(02-07-01-03\)](#)

[平成6年度試験研究用原子炉における事故・故障\(12-03-01-15\)](#)

[平成6年度放射性同位元素等取扱施設における事故・故障\(12-06-01-15\)](#)

<参考文献>

(1) 科学技術庁原子力安全局（編）：原子力安全委員会月報、Vol.18，No.4，1995

(2) 原子力安全委員会：平成7年版 原子力安全白書、大蔵省印刷局（1996年8月）

(3) 資源エネルギー庁公益事業部原子力発電安全管理課（編）：平成7年度（平成6年度実績）原子力発電所運転管理年報、（財）火力原子力発電技術協会（1995年9月）

表 1 - 1 平成 6 年度 原子力発電所におけるトラブルの概要 (法律対象)(1/2)

発生年月日	発 電 所 名	概 要	尺 度
94. 4. 12	日本原子力発電(株) 敦賀発電所 1 号機	18万キロワットで調整運転中、高圧タービンケーシング合わせ面から蒸気の漏えいが認められたため、原子炉手動停止。 原因は、当該漏えい部近傍のケーシング合わせ面が不均一であったため。	0 -
94. 4. 20	関西電力(株) 美浜発電所 3 号機	タービン弁システムフリーテストの実施のため、定格出力から出力降下中、A - 主給水制御弁に動作不良が認められたため、原子炉手動停止。 原因は、当該弁のピストンリングがシートリングに引っかかり、動作不良を起こしたため。	0 +
94. 4. 22	四国電力(株) 伊方発電所 1 号機	定期検査中、蒸気発生器伝熱管の渦電流探傷検査の結果、管板拡張部に有意な指示を発見。	0 -
94. 4. 26	関西電力(株) 大飯発電所 2 号機	定期検査中、蒸気発生器伝熱管の渦電流探傷検査の結果、管板拡張部及び拡張境界部に有意な指示を発見。	0 -
94. 5. 29	東京電力(株) 福島第二原子力発電所 3 号機	中間停止後の出力上昇中、ジェットポンプ流量に変動が認められたため、原子炉手動停止。 原因は、過去にジェットポンプの分解を実施し、再度据付けた際、押さえ金具(ビーム)に位置ずれが生じ、このためビーム端部に過大な応力が発生し、運転中の高温水に溶存する酸素が作用したため、応力腐食割れが生じビームが切損したため。	0 -
94. 8. 26	北陸電力(株) 志賀原子力発電所 1 号 機	定格出力で運転中、原子炉冷却材再循環ポンプ(B)が停止し、出力が31.9万キロワットに低下した後、原子炉手動停止。 原因は、原子炉冷却材再循環ポンプ(B)の可変周波数電源装置の配線と接地線が近接していたため、両線間で放電現象が発生し、絶縁不良に至ったため。	0 -
94. 10. 26	関西電力(株) 高浜発電所 1 号機	定期検査中、蒸気発生器伝熱管の渦電流探傷検査の結果、U字管部、管指示持板部、管板拡張部及び拡張境界部に有意な指示を発見。	0 -

〔出典〕原子力安全委員会：平成 7 年版 原子安全力白書、大蔵省印刷局（1996年 8 月）

表 1 - 2 平成 6 年度 原子力発電所におけるトラブルの概要 (法律対象)(2/2)

発生年月日	発 電 所 名	概 要	尺 度
94. 12. 4	中部電力(株) 浜岡原子力発電所 1 号機	定格出力で運転中、排ガス復水器ガスモニタ等の指示値が上昇したため、原子炉手動停止。 原因は、燃料体 1 体からの漏えいが発生したため。	0 -
94. 12. 11	東北電力(株) 女川原子力発電所 2 号機	臨界後の運転中、原子炉核計装系の定期試験を行ったところ、安全保護系が動作して原子炉自動停止。 原因は、当該試験の手順書の一部に不備があったことから、原子炉自動停止に至る信号を発生させたため。	1
95. 1. 3	関西電力(株) 高浜発電所 2 号機	定格出力で運転中、主給水管ドレン弁付近から蒸気の漏えいが認められたため、原子炉手動停止。 原因は、過去に実施した主給水隔離弁の電動化工事のため、当該ドレン管グレーチングに接触した状態で、その後のプラントの起動停止に伴う主給水管の熱による変位により、過大な応力が繰り返し作用したため発生した亀裂が、運転中の微振動による応力により進展したため。	0 -
95. 1. 5	東京電力(株) 柏崎刈羽原子力発電所 4 号機	定格出力で運転中、主変圧器比率差動リレーの動作により発電機タービンがトリップし、原子炉自動停止。 原因は、落雷により主変圧器に加わった異常な電圧の周波数が、主変圧器の一部の巻線部の固有の周波数と一致し当該巻線部で高い電圧が発生したため絶縁が低下し、巻線が損傷したため。	0 +
95. 1. 30	中国電力(株) 島根原子力発電所 2 号機	定格出力で運転中、「スクラム排出容器水位異常高」の発信により、原子炉自動停止。 原因は、復水スラッジ分離水の移送作業の際、トーラス水受入れタンク出口切替弁の 1 つが閉状態のままであったため、当該分離水スクラム排出容器内に逆流、スクラム排出容器の水位が上昇したため。	1
95. 2. 25	関西電力(株) 大飯発電所 2 号機	定格出力で運転中、高感度型主蒸気モニタ等の指示値が上昇したため、原子炉手動停止。 また、原子炉停止後の常用母線の切替えに不具合があったことにより、主蒸気逃がし弁が作動した。 原因は、調査中。	0 + 暫 定 評 価
95. 3. 24	北海道電力(株) 泊発電所 1 号機	アスファルト固化装置の定期点検中、復水タンク内の清掃をしていた際、火災が発生し、従事者 4 名が負傷した。	評 価 対 象 外 暫 定 評 価

〔出典〕原子力安全委員会：平成 7 年版 原子安全力白書、大蔵省印刷局（平成 8 年 8 月）